

**Citation:** Martin-Hirsch PPL, Kitchener HC. Interventions for preventing blood loss during the treatment of cervical intraepithelial neoplasia. *Cochrane Database of Systematic Reviews* 1999, Issue 1. Art. No.: CD001421. DOI: 10.1002/14651858.CD001421.  
**CRG名:** Gynaecological Cancer

### [最新版\(英語版\)はこちら](#)

**英語版最終改訂年月:** 23 February 2002  
**Clib issue No.;** N/U: 2009 issue 2, New

**背景:** 子宮頸部上皮内腫瘍に対する外科的治療は通常、即時および長期の合併症を伴う。本レビューでは、罹病率を減らすためにデザインされた介入を評価する。

**目的:** 優れた手術手技、その他の介入は、子宮頸部上皮内腫瘍に対する手術でよくみられる合併症である即時および長期間の出血を減らせるといわれている。本レビューは、子宮頸部上皮内腫瘍に対する手術に起因する出血を減らすための介入の効果を評価することを目的とした。

**検索戦略:** Cochrane Gynaecological Cancer Group trials registerを検索した。

**選択基準:** 上皮内腫瘍に対して手術が施行された女性を対象にバソプレッシン、トラネキサム酸、止血縫合またはモンセル液に関するランダム化試験および準ランダム化試験。

**データ収集と分析:** 2名のレビューアが独自にデータを抽出した。

**主な結果:** 7件の試験を含めた。バソプレッシンには周術期の出血に対し有益な効果があった。予防的なトラネキサム酸投与は、メスおよびレーザーによる円錐切除診後の出血を減少させた。モンセル液で充填した結果、ルーチン縫合よりも周術期の出血および後出血が減少した。選択的縫合もまた無月経および月経困難のリスクを増加させると考えられた。腔内充填により追跡時に良好なコルポスコピー率が上昇し、術後狭窄が減少した。

**レビューアの結論:** バソプレッシンを全身麻酔下よりもむしろ局所麻酔下で使用した場合に、子宮頸の手術に伴う出血を減らせると考えられる。トラネキサム酸はメスおよびレーザーによる円錐切除診後に有益であると考えられる。一次出血に対する効果を評価するにはデータが十分ではない。止血縫合は出血、頸管狭窄、良好なコルポスコピーに対して有害作用があることを示す多少のエビデンスがある。

(監訳 吉田 雅博)  
翻訳公開日: 09年9月15日

ご注意: この日本語訳は、臨床医、疫学研究者などによる翻訳のチェックを受けて公開していますが、訳語の間違いなどお気づきの点がありましたら、Minds事務局までご連絡ください。なお、コクラン・ライブラリは年4回改定版が発行されます。Mindsでは最新版の日本語訳を掲載するよう努めておりますが、編集作業に伴うタイム・ラグが生じている場合もあります。ご利用に際しては、最新版(英語版)の内容をご確認ください。